

実用に最適なポケット判、しかも高度なスグレもの

織田 昭編

### 新約聖書ギリシア語小辞典



飯島正久

一九五〇年六月七日、東京天沼のお宅に山本泰次郎先生を訪れた私は、書斎の先生と向き合っていた。夢中になって聖書の学問に打ちこんでいたところのことである。その日、先生は亡くなった奥様遺愛のギリシア語辞典を記念にと扉にサインされ私に贈ってくださいました。ご自身ギリシア語の学びに熱中なされた若き日の柏木時代を思い出すかのように話を始められた。

役所に出かける朝、鏡の前でネクタイを結ぶ間も惜しんでギリシア語の変化や暗唱箇所を口にし、いつもこの小さな辞書をポケットにしよばせて愛用なされたことなどを懐かしそうに物語った先生は、このポケット小辞典の著者A・スーターは、かの世界的な聖書学者であるW・ラムゼーの弟子であること、僅か三百ページにも満たないちっぽけな辞典なのに、有名なJ・H・モールトンとG・ミリガンが共著として完成させた権威ある大著、あの The Vocabulary of the Greek Testament の序文中で次のように紹介絶賛していることに言及なされた。

「その序文には『驚嘆すべき multum in parvo』と書かれてい

るのですが、このラテン語をどう訳したらいいでしょうね。山椒は小粒でもピリリと辛い、でしょうか。要するに人であっても物であっても、その評価は外見の立派さや形の大きさとは無関係だということですね」とおっしゃった。

これが私とスーター (A Pocket Lexicon to the Greek New Testament by Alexander Souter) との出会いであり、同時に生涯をつらぬいて活用されることになった貴重な知識や知恵が稲妻のように閃きくだった瞬間でもあった。たとえ小さくても自身の真実と豊かさが大切であること、また外見で勝負せず、内容の質で勝敗を決するような土俵に常に立ちたいという抱負、そして何よりも聖書を学ぶ喜びと、生涯学び続ける幸福など、すべて人生を決するような大事なことを先生から教えられた貴重な日となった。

さて織田昭氏と私との出会いを生んだ直接の契機は聖書だったと言ってもよいのだが、さらに狭めて言うなら新約聖書ギリシア語だとも言える。互いの友情が温められ成長を許されるに

ともない学問上の恩恵を豊かに受けながら、いつしか半世紀を越えてしまった。その恩恵の最たるものが織田さんのギリシア語小辞典である。大阪聖書学院が一九六四年に発行した初版を手にして以来すでに二冊を引き壊して三冊目が手になじんでいるのだが、初版を手にした日の感慨を今も新鮮に思い起こすことができる。日本人聖書研究者にもついにスーターに匹敵する日本語によるギリシア語辞典が誕生したのだと直感し、同胞のうちには聖書が根をおろす新時代の黎明がようやく迎えられたという輝かしい希望と感謝に満たされたのである。

その後、この小辞典を愛用するうちに、ある意味でこれはスーターのそれを上まわる高度で親切な内容の労作であることが次々に判明してきて、幾たびか深い感動と興奮を味わうに至った。(二五四ページ最終項をぜひ一例として参照されたい)

聖書研究者にとって必須の道具は、研究時左の掌中に握りしめて活用できるギリシア語辞典である。その点スーターは不便

だった。私は自分で装丁を壊して厚紙を抜き取り柔らかく装丁しなおして使っていた。この度の教文館版は聖書学者の実用に最適なサイズと装丁で届けられた。

織田昭氏はまれにみる博学の士であるのみか、キリストの福音を命よりも大切に思う誠実なクリスチャンである。彼の生涯が生み落としたこの小辞典には質の高い内容と共に普遍的な福音への霊的情熱がこめられている。日夜聖書の学びに情熱を傾ける学究の徒の左手にこの好著が握られるとき、聖霊の助けによってキリストの福音がいよいよ深く日本人の魂に根を下ろしてゆくことを確信し、神への深い感謝をささげるものである。

(いいじま・まごひさ) 港キリスト教会牧師  
(ポケット判・六六四頁・本体五〇〇〇円(税別)・教文館)